

政府少子化対策 識者の受け止め方は

年間出生数が初めて80万人を割り、少子化が加速している。岸田文雄首相が掲げる「次元の異なる少子化対策」の試案には、児童手当や育児休業の拡充、出産費用の負担軽減などが盛り込まれた。各種施策は「特効薬」となり、長年の課題である人口減少を食い止め、明るい未来を描くこ

とができるのか。八戸地区私立幼稚園PTA連合会会長の風穴雄亮さん(40)と、八戸学院大短期大学部幼児保育学科教授の今清孝さん(61)に、試案に対する評価や子育て支援の在り方について聞いた。

(聞き手・工藤洋平)

少子化対策の試案をどう見る。

政府が示した試案は間違っていないのだから、が、「異次元」と言えは今までとそんなに変わっていないのではないかと、子育て世帯がもらえるお金が増えるのはいい。ただ、効果があるかどうかは分からない。夫婦は子どもをつくりたいけれど、先行きが見えない不安がある。10年後、20年後に楽しく暮らせるかは不透明な世の中だ。日本という国の明るい未来が見え

八戸地区私立幼稚園PTA連合会会長

かざあな 風穴 雄亮さん

国の明るい未来示して

ないと、子どもを持ちたい。ある。政治には明るい未来という気持ちにならないの。を示してもらいたい。ではないか。少子化対策だ。結局、子どもを産む前のけでなく、さまざまな対策。話でもある。価値観が変わり、同時進行で講じる必要があり、いろんな生き方が増え

【略歴】 八戸市立稲穂野小PTA会長、八戸市子ども・子育て会議委員などを務める。八戸ラビーフットボール協会普及育成委員として後進の指導にも当たる。子ども3人の父。自営業。40歳。

た。出会いの場がないのであれば、国が率先して提供すべきではないか。

子どもとの向き合い方も大切だ。

子どもは自分を見てほしいと思っている。保護者は共働きで、学校の先生も仕事量が多く忙しい。スポー

ツを通じて子どもと関わる機会が多いが、しっかりと見て、褒めてあげれば子どもはどんどん伸びて輝く。

将来への「投資」理解を

先日、政府の試案が示された。

「子ども家庭庁」という組織をつくった。18歳までの子どもについて、細切れでなく、一貫して施策を検討し、実施する組織ができたことは好ましい。ただ残念なのは、できれば文部科学省の所管業務も移行してほしいかった。

ポイントは何か。

児童手当だ。所得制限を撤廃するのは一つの在り方としていいが、予算を付け

八学短大幼児保育学科教授

こん 今 きよたか 清孝さん



られるかどうか。「うちは子どもがいないから関係ない」「こんなにお金をかけるのはナンセンスだ」といった意見も出ている。将来への

「投資」だと国民に理解してもらい必要がある。

「火花」を打ち上げるとすれば、現金給付は効果があると思っている。税金の控除だと目に見えにくくなるので効果は薄れる。

政府は男性の育児休業取得率50%を目指している。

そもそも男性の育児がなぜ必要かという点、核家族

【略歴】 実家が運営する簡井保育園(青森市)に保父として勤務し、28歳で園長に就任。その後、東北福祉大大学院に進学し、総合福祉学研究所社会福祉学専攻博士課程を満期退学。2023年4月から現職。61歳。

高年齢者が増加する中、高齢者自身も自分の生活を維持するのに精いっぱい。子どもの世話をできない。今の社会を再構築するのは難しい。国民の生き方を変えないといけない。政策としては不十分だが、そのきっかけとなしてほしい。